

午後2時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 皆様、こんにちは。新友会、3番議員、諸松瀬里奈でございます。

このたびの対馬市議会議員一般選挙では、皆様からの温かい御支援を賜り、当選することができました。誠にありがとうございました。この場をお借りし、感謝申し上げます。

私は、いつでん帰ってこんねと言える対馬にしていくために、マニフェストで挙げました対馬輝き再生プランを基に市政に提案してまいります。

今回は、初めて一般質問にチャレンジさせていただきます。不慣れな点や、勉強・準備不足の点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日は、通告に従い3点についてお尋ねいたします。

1点目は、私が対馬にUターンした4年前から感じていた対馬の玄関口における駐車場の確保についての質問です。

昨年、伊原前市議が一般質問にて取り上げてくださっていましたが、出張などで長期間駐車する一般車両があるようで、駐車スペースが慢性的に不足しております。一方で、送迎で短時間利用の一般車両、大型車両の一時停車、駐車用スペースが確保されていないために、通行スペースが送迎用車両で塞がれ、送迎バスを運行する観光事業者より、この状況を何とかしてほしいと切実な声が上がっております。

対馬はもともと岩の島なので、平らな土地が全体の1%ほどしかなく、平地の駐車場の造成には膨大な市の予算がかけられております。新たな駐車場の確保も難しい状況で、玄関口の動線を考えるのは簡単なことではないと思います。

資料1を御覧ください。

一案として、現在の一般車両駐車場の一部を10台分ほど、1台ずつコインパーキング方式、これは巖原港のパネルを表示しておりますけれども、対馬空港と巖原港の駐車場を60分以上の駐車を有料化すれば、送迎用車両はその時間で余裕をもって駐車場を使用することができ、通行スペースの確保がしやすくなるため、大型車両の取り回しもスムーズになると思います。

こちらは対馬空港の画像ですけれども、まず対馬空港から説明いたします。

対馬空港のターミナルがこの上部のほうにありまして、この目の前の道路を大型バスとか一般車両が通行しておりますが、例えば、提案、一案として、今、赤く表示されているところ、このエリアを縦列駐車ができる送迎用レーンを設置して、そこにコインパーキング方式の機械を入れ

て、そして60分までは無料、60分を超えたら有料にするというシステムを導入するのはいかがでしょうかという御提案です。

先ほど表示しておりました巖原港も同じように、こちらに、ここにターミナルがありますけれども、ターミナルのこの目の前の道路、そしてその奥に、今は無料の駐車場がありますけれども、その駐車場の一部をまたこのようにコインパーキング方式にして、60分以上を有料化していくという提案です。

比田勝港については、国際ターミナルと国内ターミナルがまず離れておりますので、そのような問題は発生しておりません。大型バスの通行を送迎用の一般車両が塞ぐという問題は発生しておりませんが、国際ターミナルに一時的に数十台の大型バスが送迎に来るために、大型車両が場所取りで大変だと聞いております。これも国際ターミナル内駐車スペースの一部有料化により、問題が緩和されるのではないかと思います、市長はいかがお考えでしょうか。

この図を説明いたします。

少し広角で地図を作っておりますけれども、この国際ターミナルの目の前に7台分の大型バスの駐車スペースがあります。そして、その奥に7台分のまた大型バスの駐車場が確保しております、ここもすぐに満車になりますので、そうすると比田勝港に6台分の大型バスの駐車場があります。計20台分の大型バス駐車場が既に用意されておまして、対馬市の規模としてはもうこれで限界かなと思っております。

また、さらに、最近はそれでも足りなくて、殿崎のほうにバスが数台待っているという状況が生まれているそうです。ですので、国際ターミナルの目の前の駐車場、こちらを一部60分以上など有料化して、通行をスムーズにしていくという政策を提案させていただきます。

次に、2点目、公共施設への太陽光パネル及び蓄電池の設置計画について、市長のお考えをお尋ねいたします。

私は2011年3月の東日本大震災を多数の犠牲者が出た宮城県東松島市にて経験しました。町には20メートルの津波が押し寄せ、エリア一帯の電源喪失により、町の機能がほとんど全て失われました。近隣エリアの情報も全く入らない、陸続きではありながらも、それぞれの町が孤立しました。幸いにも東松島市庁舎には津波は到達しなかったことで、非常用電源が使用できたため、災害対策本部は機能しましたが、通常の電源回復には約5日を要しました。電気が使えないことは私たち生活者にとって大きな影響があるのは言うまでもないことですが、電気なしの生活は健常者であればまだ我慢ができます。

ここで、資料2の1を御覧ください。

これは水道の施設のルートを示した図になります。命に直結するのは電気以上に水、水道です。被災して初めて知ったのですが、貯水池から蛇口に、我々の生活者の蛇口に水を流しているの

は電気が必要な配水ポンプ、この図でいうとこちらになります。貯水池から貯水場まで来て、そして貯水場から我々の一般家庭に流れてくるための配水ポンプ、この配水ポンプが電気で動いております。

そして、停電してしばらくすると、大体1日から2日です。2日後に配水ポンプがストップして断水します。台風などの一時的な停電時は影響はありませんが、大規模停電したときには、蛇口から長期間水が出なくなりますので、万が一の備えをしていない市民は、いつ来るとも知れない給水車をひたすら待つことになります。水なしで人が生き延びる時間は僅か3日です。影響の大きさは電気の比ではありません。

東日本大震災では6時間後に来るかもしれないという不確かなうわさを信じて、一人一人長蛇の列ができました。私も並びました。そこで、私はこの被災した経験を基に、公共施設、特に市内貯水池の非常用電源の確保を提案いたします。

まず、非常用電源の確保は対馬では万全でしょうか。私がまず思いついたのが、対馬市役所厳原庁舎に隣接する対馬博物館の大きな屋根を利用した太陽光パネルと蓄電池の設置です。対馬博物館で電気をつくり、近隣の施設に送電するのです。

以前にも太陽光パネル設置が対馬博物館に検討されたということをお聞きしております。今は薄いシールの太陽光パネルが出たり、市の予算をほとんど使わなくても太陽光パネルを設置できるモデルプラン、これをエネルギーサービス契約、P P Aといいます。

資料の2の4を御覧ください。

こちらにエネルギーサービス契約と書かれております。P P A契約と言われております。これは市とエネルギーサービスがこのエネルギーサービス契約を締結して、そして、太陽光発電システムを無償でこのサービス会社が配置し、運用と補修もこの会社が提供いたします。そして、市側は発電した電力を購入することによって安定的なエネルギーを確保する。そして、そのときには予算をほとんど使わないという便利なシステムになります。

このサービスが出てきましたので、対馬博物館の屋根に太陽光を取り付けるという再考の余地があると考えます。市長、関心がおありでしたら後ほど詳しく説明させていただきます。

対馬博物館は、対馬の貴重な文化財が保存、管理されている関係で、一定の温度と湿度を必要とするので、電気代も相当にかかっていると思います。これ自体は私は問題とは思っておりませんが、災害時には人の命を優先するため、復旧には後回しになると思います。対馬博物館の電源復旧は後回しになると思います。

私は、世界に誇る貴重な対馬の文化財をできる限り後世に伝えていかなくてはならないと思っております。対馬は、災害時でも医療・行政機能の維持とともに、この博物館を何とか守らなければならないのではないのでしょうか。

そこで、質問内容に戻りますが、対馬博物館の年間経費のうち、電気代が占める割合と金額、それから対馬博物館の屋根や水道施設、病院、福祉、教育施設を含む市内各施設の屋根、屋上を利用した太陽光パネル及び蓄電池の設置についての計画のお考えはあるか。それから、市内公共施設における災害時の非常用電源がどのように確保されているか教えていただきたく、2つ目の質問とさせていただきます。

3点目は、議会開催の告知方法についてお尋ねいたします。

このたびの対馬市議会議員一般選挙をきっかけに、市民の皆様の強い関心が私たち市議会に寄せられていることは、ここにいらっしゃる方が全員御承知だと思います。去る6月10日、11日に行われた初議会では、多くの市民がテレビ中継を御覧になったそうですが、議会があることを後で知った方もたくさんいらっしゃいます。これは最近の防災無線の切替え等により、防災無線でのアナウンスがなくなったことも影響しているようです。ちなみに今回の議会は防災無線でのアナウンスがございました。

ただ、市議会開催の告知方法を調べてみますと、主な方法が防災無線のほかには、市のホームページに記載する、それから対馬市ケーブルテレビで告知するの2つに限られていることが、特に現役世代への周知不足につながっているのではないかと考えます。

また、行政に関する情報アプリは、現時点で2つ運用されております。

資料3を御覧ください。

まちいろアプリでは定例会の告知がされており、アットインフォカナルでは臨時会と定例会の告知がされていましたが、これらのアプリはどういった使い分けで運用されているのでしょうか。

さらに、各種SNSも対馬市で運用されております。公式LINEとインスタグラムです。対馬市公式LINEは、6月現在9,500人ほどの登録者、そしてインスタグラムは3,500人以上のフォロワーがいます。

最近6月17日付で、対馬市公式LINEの運用に関するアンケートを募集されていましたが、運用の見直しをこれからされるのであれば、行政情報配信アプリや対馬市の公式LINEや対馬市が管理するインスタグラムアカウントの運用の抜本的な見直しを図り、整理あるいはそれぞれの特性を生かしてコンセプトを定めて、分かりやすい告知を一緒に考えていくのはいかがでしょうか。公式LINEとインスタグラム合わせて1万2,000人に周知できますし、インスタグラムの投稿には人件費以外は特にかからないかと思います。

市民の関心が強く寄せられている議会開催の情報発信のチャンネルを増やすことをきっかけに、市の情報配信の交通整理を市長にお願いいたします。

まずは以上です。ありがとうございます。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 諸松議員の質問にお答えいたします。多岐にわたった質問でございます。ちょっと少々時間をいただきたいと思います。

初めに駐車場の確保についてでございますが、関連がありますので、3施設合わせて答弁をさせていただきます。また、御質問にあります各施設の駐車場につきましては、長崎県の所管でありますことを御理解いただければと思います。

まず、厳原港国内ターミナル及び国際ターミナルの駐車場についてでございますが、平日には多少駐車できる状況ではありますが、連休や年末年始等の時期については、駐車スペースが不足しておりますことを県も含め把握しており、現在、この解消に向けて駐車場の拡張について検討を行っているところであります。

次に、対馬空港の駐車場におきましても、厳原港国内及び国際ターミナル同様、平日には若干空きがありますが、週末や大型連休、年末年始などに利用される方を送迎する事業者や一般の送迎者が、駐車場内の指定された駐車スペース以外の駐車や路上駐車が見受けられる状況は認識しております。

空港駐車場不足の解決策として、仮に有料とされた場合、長期駐車の解消は図れますが、無料時間帯を設けると送迎関係者が駐車場を利用されることにより、島外へ行かれる市民の方が駐車できないケースも想定されるんじゃないかというふうに感じております。

また、利用目的ごとのエリアのすみ分けにつきましては、利用される方の安全確保と効率的なスペースの活用について、駐車場不足の解消に向けた検討をいただくよう、県の所管部署へ求めてまいります。

次に、比田勝港国際ターミナルの駐車場についてでございますが、比田勝港国際ターミナルの駐車場は、送迎バス専用駐車場と送迎車専用駐車場となっており、基本的に常駐の車両はございません。そのため常に車両が入れ替わり、特に出港時は車の出入りが激しく、出港した後は空になっている状態でありますので、有料化には不向きと考えております。

御質問にあります問題解消に向けた一つの解決策としての駐車場有料化の検討についてでございますが、現在、県内の港湾、空港施設について、有料化の有無や検討状況等を調査するよう担当課へ指示をしております。今後につきましては、この調査結果を踏まえた上で、県と有料化についての協議を進めてまいりたいと考えております。

次に、公共施設への太陽光パネル及び蓄電池の設置計画についてでございますが、初めに、対馬博物館の年間経費のうち、電気代が占める割合と金額についてお答えいたします。

対馬博物館における令和6年度の電気代は約2,100万円で、施設に係る年間維持管理経費のうち約27%を占めております。

次に、博物館の屋根を活用した太陽光パネル及び蓄電池の配置計画についてお答えいたします。

対馬博物館においては、現段階では太陽光パネル、蓄電池ともに配置する計画はございません。

施設の維持管理経費の低減及び再生可能エネルギーの推進という観点におきましては、対馬博物館の建設に当たり、設計の前段階にて担当部署で設計業務の受託者を交え、太陽光パネルの整備に関し協議、検討をしております。当時の試算では、10キロワットから20キロワット程度で、博物館全体の使用電力の約37%を削減できるという見込みでございました。

しかし、太陽光パネルを設置するためには、柱などの構造に係る基礎部分を通常より強靱化する必要があり、建築工事費の大幅な増につながることから、建設に要する経費の削減が求められていた背景もあり、断念した経緯がございます。これは、平成27年8月、11月の市議会全員協議会において、整備面積、建設費の削減について検討するよう指摘があったものであります。

今後、改めて対馬博物館に設備を導入するには、建物の耐久性や耐震性を確保するため、基礎や構造に係る部分そのものを改変する必要性が生じることから、現実的には非常に困難であると考えております。

さらに、対馬博物館には、長崎県対馬歴史研究センターが併設され、重要文化財を含む多くの博物館資料を共同で保存、管理し、調査、研究、活用を行っております。これに伴い、施設管理費を県にも負担いただいて運営しているところではありますが、太陽光パネル等の導入に際しては、イニシャルコストやランニングコストの検証を基に、施設管理費負担金の増減も踏まえた県との協議が必須であります。そのため、市の一存で決定することはできかねますし、県の意向、判断を尊重する必要があります。

そして、災害時の電力供給の停止と、温湿度を管理する空調設備の機能停止がもたらす、収蔵している博物館資料の毀損の危険性につきましては、市といたしましても承知しているところであり、設計段階でも各方面からの意見聴取、協議、検討を行ってまいりました。

ただ、積算したところ、非常用電源の導入と維持管理に係る費用が非常に大きくなることが判明し、断念した次第でございます。代わりに、収蔵庫をはじめとした資料を収蔵・保存する諸室は、電力供給が途絶えたことによる機能停止に際しても、対馬市内、厳原市街地における停電復旧までに要する一定時間——3時間から4時間と言われております——は温度や湿度が維持できるような構造で設計されており、貴重な資料を損なう可能性は低いと考えております。

しかしながら、太陽光パネル等につきましては、先進的な技術革新により、先ほど申し上げた構造上の問題や維持管理に係る費用の問題等が解決できるような可能性が出てきた場合には、大規模な災害時の資料保全を万全にするため、将来的には導入も検討してまいりたいと考えております。

次に、市内各公共施設の屋上等への太陽光パネル及び蓄電池の配置計画があるかとの質問でございますが、公共施設への太陽光パネルの導入は、持続可能な社会の実現に貢献するだけでなく、

光熱費の削減を通じた長期的な市の財政負担軽減にもつながるものと認識しております。また、蓄電池を併設することで、災害時の停電に際して非常用電源として機能させ、市民の皆様の安全確保や防災拠点としての役割を強化できる大きなメリットがございます。

これらのメリットは十分に認識いたしておりますが、本市におきましては、公共施設は既に建設から30年以上が経過している施設が多く、施設の改修等が急務となっております。太陽光パネルや蓄電池といった重量物を屋上等に設置するには、施設の構造がその重量に耐え得るか、また、長期的な安全性を確保できるかという点で、耐震補強を含む大規模な改修や補強工事が不可欠となるものでございます。

また、議員御承知のとおり、整備には初期投資としての多額の費用を要するものと認識しております。現在の本市の財政状況を鑑みましても、これらの設備導入に係る費用をどのように念出し、かつこれを持続可能な形で維持、運用していくか十分な議論が必要であると考えております。

本市では公共施設の老朽化が進む中、既存施設の更新、長寿命化、集約化、複合化、転用、除却といった各施設の具体的な方向性を対馬市公共施設等個別施設計画により定め、施設ごとの課題に優先的に取り組んでいるところでございます。

現在のところ、公共施設への太陽光パネル及び蓄電池の設置計画はございませんが、公共施設等総合管理計画における管理、運営の効率化とコスト削減の方針に基づき、施設の更新や長寿命化を進める過程で、その可能性について、施設の構造的な問題や財源の確保といった課題を十分に踏まえながら、対応を考えてまいります。

次に、市内公共施設における災害時の非常用電源の確保はどのようにされているかとの御質問でございます。

公共施設における災害時の非常用電源の確保につきましては、現在、対馬市交流センター、豊玉文化会館、庁舎を含め、計11か所の公共施設に非常用電源を確保しております。さらに、万が一の事態に備え、機動的な電力供給を可能とするため、可搬式発電機を18台、ポータブル蓄電池を9台確保いたしております。また、今年度、電気自動車を公用車として2台導入する予定でございます。この電気自動車は、走行用バッテリーに大容量の電力を蓄えており、災害時には速やかに移動し、非常用電源として活用することも可能でございます。

さらに、電力の復旧につきましては、九州電力送配電株式会社対馬配電事業所と、対馬市災害復旧に関する協定書を締結いたしております。この協定に基づき、災害発生時には、緊急かつ直接的に人命に関わる施設、国、自治体による災害復旧活動上の重要施設、社会の基幹的機能を有する施設への送電を優先して復旧できますよう連携を図ってまいります。

万が一、配電設備の復旧に長時間を要する場合には、本市の要請により、九州電力送配電株式会社との協議の上、移動用発電機、要するに電源車による緊急送電の実施につきましても調整す

ることといたしております。その際には、設置箇所及び優先順位について、市と九州電力送配電株式会社が緊密に連携し決定してまいります。

最後に、議会開催の告知についてでございますが、地方自治法第101条第7項には、招集は開会の日7日前までにこれを告示しなければならないと定められております。本市におきましては、定例会の場合、会期初日の2週間前に議長へ招集通知を行い、同日、対馬市公告式規則第2条第2項に基づき各庁舎の掲示板に告示を行っております。また、議会開催初日の前日には、屋外放送及び防災アプリ、アットインフォカナルによる周知も実施しているところでございます。

このタイミングでの周知は、市民の皆様には議会開催をより強く意識していただくため、また、告示から開催期間までが長過ぎることによる告知内容の忘却を防ぐため行っているものでございます。

今後は、議会の開催をより広く市民の皆様にお知らせするため、対馬市の公式LINEを活用し、市民の皆様がより身近なツールで情報を得られるよう努めてまいります。

なお、議会の会期日程等の詳細につきましては、これまでどおり対馬市のホームページから、議会事務局より市民の皆様へ周知されます。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 3番、諸松瀬里奈君。

○議員（3番 諸松 瀬里奈君） 市長の御答弁、誠にありがとうございます。

まず、質問事項1つ目、駐車場の確保について、既に県と協議して、そして調査段階まで進んでいるという御回答をいただきまして、誠にありがとうございます。我々市民もそれを見守りながら、また、おいおい質問につなげていきたいと思っております。

それから、公共施設への太陽光パネル及び蓄電池の設置計画につきまして、今のところ計画がないということで御答弁をいただいております。

博物館の年間経費のうち電気代が占める割合と金額、ありがとうございます。参考にさせていただきます。

計画がないということでしたけれども、資料の2の2を御覧ください。2の2は何ページかあるんですけれども、1ページ目です。こちらのページを御覧いただければと思います。

第三者所有モデルとはというタイトルについております。これは環境省のホームページに載っている資料をそのまま持ってきておりますけれども、第三者所有モデルというのは、先ほど、エネルギーサービス契約、PPA契約のことをいっておりますけれども、市長が先ほど御答弁されていたことは、自己所有の場合の問題、課題を上げていらっしゃったんですが、まず予算の関係とそれから重さの問題、いろいろ設備の重量があるということで御答弁いただきましたが、現在、結構技術が発達しておりまして、かなり軽量化が進んでおりまして、シール型の太陽光パネルも

出てきているような状況だそうです。それから、対馬市博物館は窓というかガラスの壁、強化ガラスで覆われておりますが、そのガラス面にも貼れるような太陽光パネルも出てきていると聞いております。

この第三者所有モデルというのは、自治体が所有する公共施設の屋根や公有地に事業者が発電設備を設置、所有、管理する方法のことで、初期費用はもちろんかかりませんし、メンテナンスも要りません。それから、短期間に多くの設備導入が可能だということでかなりメリットが多くて、ほかの自治体では、お隣の壱岐市が導入を進めているようです。

資料2の3、こちら壱岐市の市長、これ2年前のユーチューブの動画に、環境省が作った動画に上がっているんですけども、壱岐市長の前市長の白川市長が映っていらっしやいまして、そこで、我が市はこれからP P A契約を進めていきますよということで、壱岐市でも今進めているようです。

全国の自治体でも、千葉市も先進的に進めておりまして、千葉市ももともと自己所有の太陽光パネルがなかなか進まなかったけれども、また資料に戻りますが、こういったグラフの資料があります。これ千葉市のことですが、この緑側の18、これ前は2015年と2016年はこれだけしか太陽光パネルの設置が進まなかった。これは自己所有による事業ですが、これを切り替えて3年ほど準備を進めていって、第三者所有、P P A契約によってこんなにたくさん、118の施設に太陽光パネルの設置が進んだと。これは予算の兼ね合い、予算が自分のところで使わなくて済んだことと、それから設置とそれから管理が外注というか、業者さんによってされるために自治体の負担が軽減されたということだと思います。

ですので、我が市でもこういったP P Aモデルを使った契約が可能だと私は思っておりますので、今の太陽光パネルとか蓄電池とか、いろんな最新の技術を業者さんは御存じですので、我々はその人と契約を結んでお任せするという形が妥当かなと思っております。

ちなみにその準備には何段階かプロセスがありまして、ちょっと字が細かくて見にくいと思いますが、このような段階でプロセスが進みまして、これを全て進めると大体2年から3年の時間がかかります。ですから、今から市長がじゃあ分かりましたと、この契約を進めますとおっしゃっていただいたとしても、3年以上は我が市でこの太陽光パネル、業者さんに取り付けていただくために時間が必要になってきますので、今のうちに市長に御検討いただければと思います。

それから、告知です。議会開催の告知、市長から公式LINEで議会開催の告知をするよということで答弁をいただきまして、誠にありがとうございます。これで現役世代も広く議会開催の告知の周知が進むと思いますし、私は、できましたらその一歩先に進んだ議会そのものも公開に踏み切って、ユーチューブとかいろんな電子媒体に公開が進めばいいなと思っておりますけれど

も、そういった議会の公開について市長のお考え、今のところどのようなお考えでいらっしゃる
かお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 議会の公開につきましては、これまでもいろいろと議論をされてきた
ところであるというふうに認識しております。その中で、今現在はこの対馬市内のケーブルテレ
ビでの公開というふうになっております。このケーブルテレビはライブ放送と、また後日見られ
るようにビデオ等の録画もできるようになっております。そこでまた、今まで検討されてきたの
が、ユーチューブでやれないかという話も議論されてまいりましたが、まだまだユーチャー
ブで発信するまでには至っていない。私自身もこの対馬市の議会のほうも、ユーチューブで発信
するには、もう少し議論を詰めていく必要があるのではないかなというふうに感じております。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 3 番、諸松瀬里奈君。

○議員（3 番 諸松 瀬里奈君） 市長、御答弁ありがとうございます。ユーチューブの公開発信
には議論が必要だということで、引き続き私たちもユーチューブの公開に向けて議論を進めさせ
ていただければと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、諸松瀬里奈君の質問が終わりました。

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問が終わりました。

明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後 2 時 49 分散会